第一章　未来技術との遭遇　9
昭和二十五年　夢列車　18
ヒロシマの衝撃

第二章　大揺れの学術会議　32
解禁された原子力　43
うず巻く賛否両論

第三章　動き始めた平和利用　51
原子炉売ります　65
政治家の剛速球

第四章　先進国に学ぶ　77
ロサンゼルスの先兵　88
調査団、欧米へ

第五章　原子力時代の到来　103
独走する丸紅　110
ジュネーブの興奮　121
急激な日本の胎動

第六章　原子炉を射落とせ　131
引っ張りだこの原研　143
敷地は東海村に　151
にぎやかな狂騒曲

第七章　わき立つ東海村　161
進む予備調査　169
こぎつけた起工式

第八章　急展開の工事と交渉　181
日に夜を継いで　190
ウラン輸入もOK

第九章　米国で運転見習い　202
点火作業に参加
同型の原子炉で　211
第十章　始まった組み立て　217
米人技師の来日
記者もハッスル　224
第十一章　行き違い・食い違い　233
米国式に戸惑い
よく化けた調達品　241
第十二章　濃縮ウランさま　253
黄色い粉末の燃料
要人なみの警護　260
第十三章　空気と水との闘い　267
気密テスト難航
東海村にダム出現　276
第十四章　近づいた大詰め　282
八月末を目標に
黒変したウラン溶液　291
第十五章　原子力の夜明け　299
点火作業始まる
ついにともった火　308
第十六章　飛び立つ平和のハト　317
すわストライキ
お祭気分の完工式　322
あとがき　329
感謝のことば　333